人民日報 日中新聞 (第三種郵便物認可) JAPAN・CHINA NEWS

桜美林大学北東アジア総合研究所・関東日中関係学会

超大国、中国の行方

「建国60周年の中国」出版記念で講演会開催

新しい時代の日中関係の行方
著名執筆陣が専門分野を深耕

2009年5月、東京アルカディア市ヶ谷で開かれた桜美林大学北東アジア総合研究所および関東日中関係学会の共催で「超大国、中国の行方」出版記念講演会が開かれた。講師は、関東日中関係学会副会長・関東日中関係学会副会長・桜美林大学北東アジア総合研究所」が執筆されたことを受けて開催されたもので、当日は約200人の参加者で会場は満席となった。

出版記念講演会の開会にあたり、日中関係学会会長の福川伸次氏が挨拶した。福川会長は「建国60年」の節目を「超大国、中国の行方」と題した講演を行った。

また、元駐日中国大使の王泰平氏、元駐日中国大使の王泰平氏、桜美林大学北東アジア総合研究所の所長である毛里和子氏、そして福川会長の4人が、それぞれの専門分野から講演を行った。

王泰平氏は、「中国は経済的な面から中国を観察するだけでなく、政治・外交・軍事・社会・文化など多角的な視点から中国を観察していくことは、私たち日本人にとっても大変重要なことである」と述べた。

毛里和子氏は、「中国の現在・将来」を分析し、「複眼」新たな関係作り目指す」と題して講演を行った。

毛里氏は、「中国の台頭は、日本にとってチャンスなのか、それともリスクなのか、という二者択一の問いかけが多いが、そのような問いかけ自体が間違っている」と指摘した。

また、毛里氏は、「中国の台頭を、日本にとってどのようにプラスに変えていくかという視点が重要である」と述べた。

福川会長は、「中国は経済的な面から観察するだけでなく、政治・外交・軍事・社会・文化など多角的な視点から観察していくことが重要である」と述べた。

また、毛里氏は、「中国の台頭は、日本にとってチャンスなのか、それともリスクなのか、という二者択一の問いかけが多いが、そのような問いかけ自体が間違っている」と指摘した。

毛里氏は、「中国の台頭を、日本にとってどのようにプラスに変えていくかという視点が重要である」と述べた。

福川会長は、「中国は経済的な面から観察するだけでなく、政治・外交・軍事・社会・文化など多角的な視点から観察していくことが重要である」と述べた。